患者さんへ
脆弱性骨盤骨折に対する低侵襲手術の有用性に関する検討

この研究は、通常の診療で得られた記録を使って行われます。
このような研究では、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得ることが困難な場合には、研究の目的を含む研究の実施についての情報を公開することが必要とされています。
なお、研究結果は学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表いたしません。

1 研究の対象	2020 年 1 月～2021 年 12 月までに当院で低侵襲手術を受けられた脆弱性骨盤骨折の方
2 研究目的 ・方法	脆弱性骨盤骨折とは、主に高齢者において、転倒などの軽微な外力で発生する骨折のことを指します。かつては保存治療が基本とされてきましたが、近年、低侵襲な手術治療が積極的に行われるようになっています。一方、脆弱性骨盤骨折はレントゲンだけではわからない場合もあり、脆弱性骨盤骨折の知見を集積し、広めていくことが求められています。そこで本研究では、知見の集積の一助として、脆弱性骨盤骨折に対する低侵襲手術の有用性を評価します。具体的には、手術の侵襲（手術時間、出血量、合併症）と、その効果（痛みや歩行能力などの改善状況）などを調査します。 研究の期間：施設院長許可（2023 年 8 月予定）後～2024 年 10 月
3 情報の 利用拒否	情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんのご家族等で患者さんの意思及び利益を代弁できる代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としません。その場合は、「5. お問い合わせ先」までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。 ただし、ご了承頂けない旨の意思表示があった時点で既にデータ解析が終わっている場合など、データから除けない場合もあり、ご希望に添えない場合もあります。
4 研究に用いる情報の種類	● 患者背景基礎データ（年齢、性別、既往など） ● 病態に関するデータ、画像・検査データ ● 手術に関するデータ（手術方法、手術時間、出血量、合併症の有無など） ● その後の転帰 （痛みの改善状況、歩行能力、入院期間など） など
5 お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 札幌東徳洲会病院　整形外科外傷センター　佐藤　和生（研究責任者） 住所：札幌市東区北 33 条東 14 丁目 3 番1号 電話番号：011-722-1110（代表）

2023 年 8 月 2 日作成（第 1 版）